2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

メディカルスポーツ
柔道整復学科

3年生

学校法人こおりやま東都学園

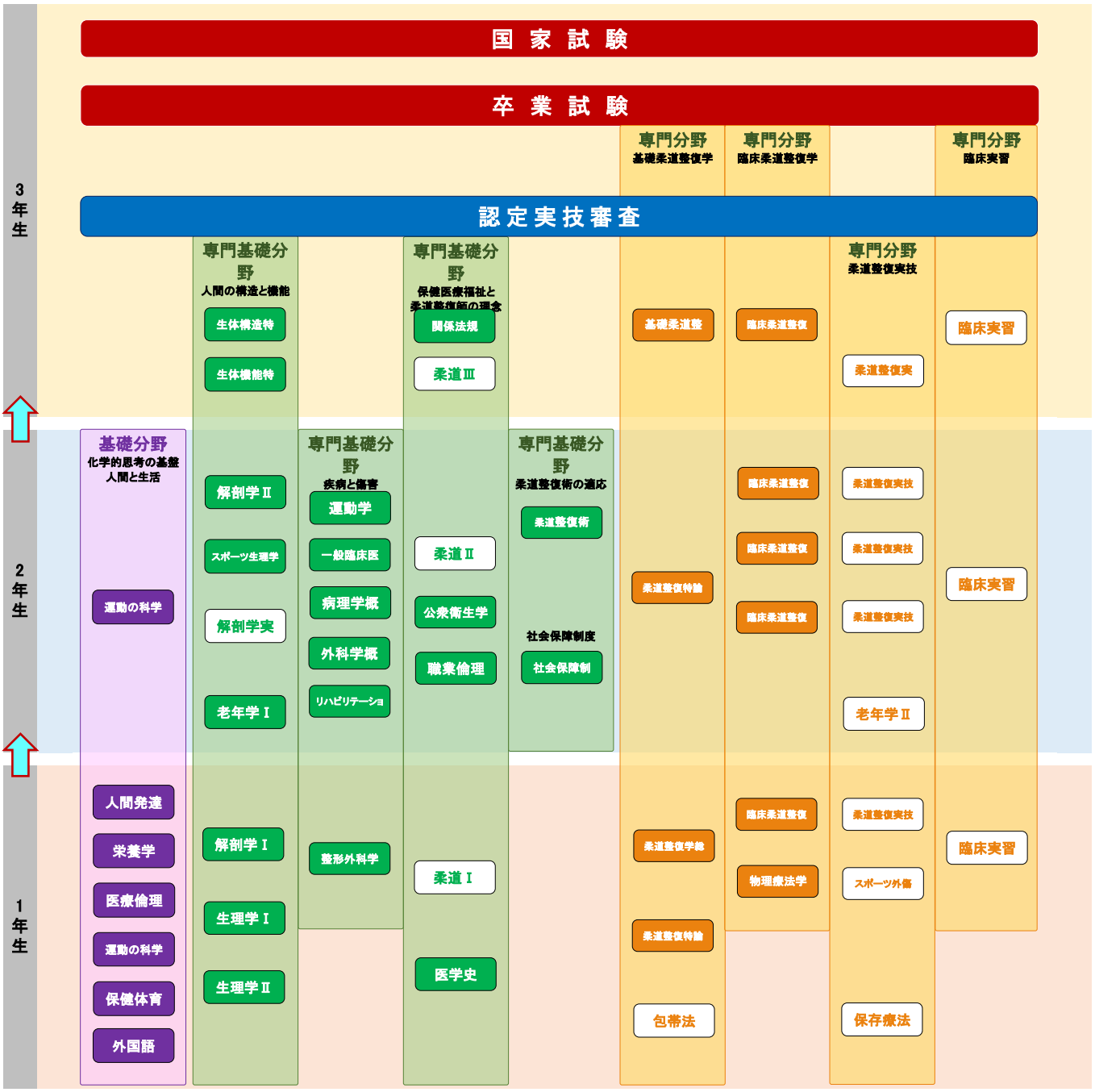
郡山健康科学専門学校　メディカルスポーツ柔道整復学科　2024年度 入学生

◆ ディプロマポリシー

- 柔道整復師に必要な基本的知識･技術を有し，疾患や障害を全人間的に捉えて臨床的推論を行う能力を身につけた人
- 医療の新知見を収集して自己研鑽し，根拠に基づいた医療を行う能力を身につけた人
- 他職種間の連携を図り，円滑なコミュニケーションによるチームアプローチを行う能力を身につけた人
- 高い倫理観と豊かな人間性を備え，社会に貢献する能力を身につけた人

◆ 柔道整復師として獲得すべき到達目標

コミュニケーション能力　チームアプローチの実践　問題対応能力　プロフェッショナリズム



ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科　2025年度生　履修一覧

1年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	情報処理概論	
	医療倫理	●
	運動の科学Ⅰ	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	
	柔道Ⅰ	●
基礎柔道整復学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論Ⅰ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ外傷予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技Ⅰ	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	●

2年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	運動の科学Ⅱ	
人体の構造と機能	解剖学Ⅱ	●
	解剖学実習	●
	老年学Ⅰ	●
	スポーツ生理学	●
疾病と傷害	運動学	●
	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
柔道整復術の淹応	柔道整復術の適応	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅱ	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度	社会保障制度	●
基礎柔道整復学	柔道整復特論Ⅱ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅱ	●
	臨床柔道整復学Ⅲ	●
	臨床柔道整復学Ⅳ	●
柔道整復実技	柔道整復実技Ⅱ	●
	柔道整復実技Ⅲ	●
	柔道整復実技Ⅳ	●
	老年学Ⅱ	●
臨床実習	臨床実習Ⅱ	●

3年

教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療と福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅲ	●
	関係法規	●
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー	●
	臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技	柔道整復実技セミナー	●
臨床実習	臨床実習Ⅲ	●

1. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生体構造特論	吉田　俊太郎	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生体構造	臨床的知識1	グループ
2	生体構造	臨床的知識2	グループ
3	生体構造	臨床的知識3	グループ
4	生体構造	臨床的知識4	グループ
5	生体構造	臨床的知識5	グループ
6	生体構造	臨床的知識6	グループ
7	生体構造	臨床的知識7	グループ
8	生体構造	臨床的知識8	グループ
9	生体構造	臨床的知識9	グループ
10	生体構造	臨床的知識10	グループ
11	生体構造	臨床的知識11	グループ
12	生体構造	臨床的知識12	グループ
13	生体構造	臨床的知識13	グループ
14	生体構造	臨床的知識14	グループ
15	生体構造	臨床的知識15	グループ

期末試験	評価方法		
筆記試験	筆記試験	90%	
	受講態度	10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修『運動学』 改訂第3版 (医歯薬出版)
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(解剖学・生理学・病理学)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生体機能特論	勝田　新一郎	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】

①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。
④
⑤

【受講して得られる力】

知識・理解
問題解決力
チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生体機能	臨床的知識1	グループ
2	生体機能	臨床的知識2	グループ
3	生体機能	臨床的知識3	グループ
4	生体機能	臨床的知識4	グループ
5	生体機能	臨床的知識5	グループ
6	生体機能	臨床的知識6	グループ
7	生体機能	臨床的知識7	グループ
8	生体機能	臨床的知識8	グループ
9	生体機能	臨床的知識9	グループ
10	生体機能	臨床的知識10	グループ
11	生体機能	臨床的知識11	グループ
12	生体機能	臨床的知識12	グループ
13	生体機能	臨床的知識13	グループ
14	生体機能	臨床的知識14	グループ
15	生体機能	臨床的知識15	グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修『運動学』 改訂第3版 (医歯薬出版)
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 専門基礎(解剖学・生理学・病理学)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道Ⅲ	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修業は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①初段程度の受身を習得する。 ②投の形(手技・腰技・足技)の受取を習得する。 ③初段程度の乱取を習得する。 ④ ⑤	前に踏み出す力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道の沿革　礼法	立礼・座礼の確認 試験の柔道場への入り方・出方	ペア
2	投の形(手技)1	浮落・背負投を習得する。	ペア
3	投の形(手技)2	肩車を習得する。	ペア
4	投の形(腰技)1	浮腰を習得する。	ペア
5	投の形(腰技)2	払腰を習得する。	ペア
6	投の形(腰技)3	釣込腰を習得する。	ペア
7	投の形(足技)1	送足払を習得する。	ペア
8	投の形(足技)2	支釣込足を習得する。	ペア
9	投の形(足技)3	内股を習得する。	ペア
10	乱取1	受・取での技を習得する。	ペア
11	乱取2	受・取での技を習得する。	ペア
12	乱取3	受・取での技を習得する。	ペア
13	乱取4	受・取での技を習得する。	ペア
14	実技試験		ペア
15	解説・再試		ペア

期末試験		評価方法	実技試験　90% 受講態度　10%	

【教科書】	特になし
【参考書】	講道館柔道　投形　DVD

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
関係法規 ※実務経験のある教員等による授業科目	後藤　優弥 接骨院(柔道整復師)10年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、開業時の施術所開設届の作成、および柔道整復師の近年着目されている広告制限についても学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。 ②法律とは何か、社会における法の在り方について理解する。 ③医療に関連する法規を身に着け、柔道整復師としてできることは何かを知る。 ④施術所開設届・変更届の方法を理解し、開業時のプロセスを身に着ける。 ⑤広告制限について理解し、社会に認められる柔道整復師の倫理像を身に着ける。	知識・理解 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	Ⅰ　序論	法律で出る文言の意味、六法など 法の体系	個人
2	Ⅱ　柔道整復師法	第1章　　総則 第2章　　免許	個人
3	Ⅱ　柔道整復師法	第3章　　柔道整復師国家試験 第8章　　指定登録機関及び指定試験機関	個人
4	Ⅱ　柔道整復師法	第4章　　業務	個人
5	Ⅱ　柔道整復師法	第5章　　施術所 (施術所開設届の作成)	個人
6	Ⅱ　柔道整復師法	第6章　　雑則 (広告制限とガイドライン)	個人
7	Ⅱ　柔道整復師法	第7章　　罰則 (逮捕から起訴までの流れ)	個人
8	中間テスト	柔道整復師法までのまとめ	個人
9	Ⅲ　関係法規	医療資格法規①	個人
10	Ⅲ　関係法規	医療資格法規②	個人
11	Ⅲ　関係法規	医療法①	個人
12	Ⅲ　関係法規	医療法②	個人
13	Ⅲ　関係法規	社会福祉関係法規	個人
14	Ⅲ　関係法規	社会保険関係法規	個人
15	Ⅲ　関係法規 まとめ	その他の関係法規 これまでの復習	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『関係法規』2026年度版 (医歯薬出版)
【参考書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 (医歯薬出版)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】専門基礎(公衆衛生学)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

2. 専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(1/7)	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	柔道整復師に必要な解剖系基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(2/7)	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	柔道整復師に必要な生理系基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(3/7)	後藤　優弥	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	柔道整復師に必要な運動系基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(4/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	柔道整復師に必要な病理系基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(5/7)	三上　将貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	骨折の基礎的知識を理解する1	個人
2	柔道整復学	骨折の基礎的知識を理解する2	個人
3	柔道整復学	脱臼の基礎的知識を理解する1	個人
4	柔道整復学	脱臼の基礎的知識を理解する2	個人
5	柔道整復学	靭帯損傷の基礎的知識を理解する	個人
6	柔道整復学	筋損傷の基礎的知識を理解する	個人
7	柔道整復学	腱の基礎的知識を理解する	個人
8	柔道整復学	末梢神経損傷の基礎的知識を理解する	個人
9	柔道整復学	診察の基礎的知識を理解する	個人
10	柔道整復学	後療法の基礎的知識を理解する	個人
11	柔道整復学	頭部の損傷の基礎的知識を理解する1	個人
12	柔道整復学	頭部の損傷の基礎的知識を理解する2	個人
13	柔道整復学	胸部の損傷の基礎的知識を理解する	個人
14	柔道整復学	頸椎、胸椎の損傷の基礎的知識を理解する	個人
15	柔道整復学	腰椎の損傷の基礎的知識を理解する	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(6/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	上肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	上肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	上肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	上肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	上肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	上肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	上肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	上肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	上肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	上肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	上肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	上肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	上肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	上肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	上肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(7/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点をみつけ総合力を身につける。 ③ ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学	下肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
2	柔道整復学	下肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
3	柔道整復学	下肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
4	柔道整復学	下肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
5	柔道整復学	下肢骨折の基礎的知識を身につける	個人
6	柔道整復学	下肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
7	柔道整復学	下肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
8	柔道整復学	下肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
9	柔道整復学	下肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
10	柔道整復学	下肢脱臼の基礎的知識を身につける	個人
11	柔道整復学	下肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
12	柔道整復学	下肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
13	柔道整復学	下肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
14	柔道整復学	下肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人
15	柔道整復学	下肢軟部組織損傷の基礎的知識を身につける	個人

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(1/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④外傷と原発性・続発性基礎疾患との関連性について理解する。	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(頭部及び顔面部損傷・疾患)について理解する。	グループ
2	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(脊柱損傷・疾患)について理解する。	グループ
3	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(胸郭損傷・疾患)について理解する。	グループ
4	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(腹腔損傷・疾患)について理解する。	グループ
5	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(骨盤腔損傷・疾患)について理解する。	グループ
6	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(上肢損傷・疾患)について理解する。	グループ
7	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(下肢損傷・疾患)について理解する。	グループ
8	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(感染性疾患)との関係性について理解する。	グループ
9	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(麻痺性疾患)との関係性について　理解する。	グループ
10	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(代謝性疾患)との関係性について理解する。	グループ
11	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(膠原病疾患)との関係性について理解する。	グループ
12	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(遺伝性疾患)との関係性について理解する。	グループ
13	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(病原性微生物疾患)との関係性について理解する。	グループ
14	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(環境ホルモン・化学物質)との関係性について理解する。	グループ
15	柔道整復学　理論	一般臨床系知識(神経系・脈管系・内分泌系疾患)との関係性について理解する。	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	基礎医学の教科書・柔道整復学理論書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集 標準整形外科学・病気がみえるシリーズ
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(2/7)	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
2	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
3	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
4	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
5	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
6	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
7	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
8	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
9	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
10	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
11	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
12	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
13	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
14	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ
15	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な外科的臨床知識を理解する	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(3/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(運動器)を身につける	グループ
2	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(診察法)を身につける	グループ
3	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(検査法)を身につける	グループ
4	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(治療法)を身につける	グループ
5	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(骨・関節損傷)を身につける	グループ
6	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(スポーツ整形外科)を身につける	グループ
7	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(様々な疾患)を身につける	グループ
8	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(頸部)を身につける	グループ
9	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(胸部)を身につける	グループ
10	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(腰部)を身につける	グループ
11	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(肩・肩甲帯)を身につける	グループ
12	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(上腕・前腕・手関節)を身につける	グループ
13	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(骨盤・股関節)を身につける	グループ
14	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(大腿・膝関節)を身につける	グループ
15	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な整形外科的臨床知識(下腿・足関節・足・足趾)を身につける	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(4/7)	三上 将貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
2	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
3	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
4	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
5	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
6	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
7	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
8	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
9	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
10	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
11	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
12	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
13	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
14	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ
15	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要なリハビリ・公衆衛生の知識を理解する	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(5/7)	後藤　優弥	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
2	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
3	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
4	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
5	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
6	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
7	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
8	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
9	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
10	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
11	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
12	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
13	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
14	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ
15	柔道整復学　理論	柔道整復師に必要な関係法規・社会保障の知識を理解する	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(6/7)	後藤　優弥	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
2	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
3	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
4	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
5	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
6	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
7	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
8	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
9	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
10	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
11	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
12	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
13	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
14	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ
15	柔道整復学　理論	医療概論と柔道の知識を身につける	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	国家試験の出題傾向と対策

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(7/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	105(210)	講義	7

【授業の概要・目的】

3年間の柔道整復学を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。	知識・理解
②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。	問題解決力
④	考え抜く力
⑤	チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
2	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
3	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
4	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
5	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
6	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
7	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
8	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
9	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
10	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
11	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
12	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
13	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
14	柔道整復学　理論	柔道整復理論の知識を身につける。	グループ
15	まとめ	柔道、医療概論、社会保障の復習	グループ

期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	全ての科目の教科書
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	調べることを惜しまず取り組む。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床的判断(画像理解)	三上　将貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

柔道整復師が関与する運動器の臨床画像(MRI、CT、X-P、超音波)について、基本的撮影方法～医師の読影方法まで理解し、臨床現場での対応力を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①各種画像診断装置の名称およびしくみを理解する。 ②各種画像診断装置の撮影方法を理解する。 ③各種画像診断装置の読影方法を理解する。 ④ ⑤	考え抜く力 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	各種画像診断装置の種類と特長①	各種画像診断装置の特徴と違いについて理解する。	個人
2	各種画像診断装置の種類と特長②	各種画像診断装置の特徴と違いについて理解する。	個人
3	各種画像診断装置の撮影と読影方法①	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
4	各種画像診断装置の撮影と読影方法②	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
5	各種画像診断装置の撮影と読影方法③	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
6	各種画像診断装置の撮影と読影方法④	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
7	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑤	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
8	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑥	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
9	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑦	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
10	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑧	X-Pの撮影および読影方法について理解する。	個人
11	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑨	超音波画像の撮影および読影方法について理解する。	個人
12	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑩	超音波画像の撮影および読影方法について理解する。	個人
13	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑪	MRI・CTの撮影および読影方法について理解する。	個人
14	総まとめ	各種画像診断装置の特徴と違いの全体像を理解する。	個人
15	総まとめ	各種画像診断装置の特徴と違いの全体像を理解する。	個人

期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会　監修『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(1/7)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①診察および整復の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察および整復の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
2	診察および整復の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
3	診察および整復の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
4	診察および整復の能力	上腕骨外科頸骨折	ペア・グループ
5	診察および整復の能力	上腕骨外科頸骨折	ペア・グループ
6	診察および整復の能力	上腕骨外科頸骨折	ペア・グループ
7	診察および整復の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
8	診察および整復の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
9	診察および整復の能力	肩鎖関節上方脱臼	ペア・グループ
10	診察および整復の能力	肩鎖関節上方脱臼	ペア・グループ
11	診察および整復の能力	肩関節前方脱臼	ペア・グループ
12	診察および整復の能力	肩関節前方脱臼	ペア・グループ
13	診察および整復の能力(総復習)	診察および整復のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	診察・整復操作の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	技術内容の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(2/7)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①診察および整復・検査の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察および整復の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
2	診察および整復の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
3	診察および整復の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
4	診察および整復の能力	肘内障	ペア・グループ
5	診察および整復の能力	肘内障	ペア・グループ
6	診察および整復の能力	肘内障	ペア・グループ
7	診察および検査の能力	肩腱板損傷	ペア・グループ
8	診察および検査の能力	肩腱板損傷	ペア・グループ
9	診察および検査の能力	上腕二頭筋長頭腱損傷	ペア・グループ
10	診察および検査の能力	上腕二頭筋長頭腱損傷	ペア・グループ
11	診察および検査の能力	ハムストリングス損傷	ペア・グループ
12	診察および検査の能力	ハムストリングス損傷	ペア・グループ
13	診察および整復・検査の能力(総復習)	診察および整復・検査のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	診察・整復・検査の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	技術内容の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(3/7)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①診察および検査の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察および検査の能力	大腿四頭筋打撲	ペア・グループ
2	診察および検査の能力	大腿四頭筋打撲	ペア・グループ
3	診察および検査の能力	膝関節側副靭帯損傷	ペア・グループ
4	診察および検査の能力	膝関節側副靭帯損傷	ペア・グループ
5	診察および検査の能力	膝関節十字靭帯損傷	ペア・グループ
6	診察および検査の能力	膝関節十字靭帯損傷	ペア・グループ
7	診察および検査の能力	膝関節半月板損傷	ペア・グループ
8	診察および検査の能力	膝関節半月板損傷	ペア・グループ
9	診察および検査の能力	下腿三頭筋損傷	ペア・グループ
10	診察および検査の能力	下腿三頭筋損傷	ペア・グループ
11	診察および検査の能力	足関節外側靭帯損傷	ペア・グループ
12	診察および検査の能力	足関節外側靭帯損傷	ペア・グループ
13	診察および検査の能力(総復習)	診察および検査のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	診察・検査操作の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	技術内容の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(4/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①固定の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	固定の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
2	固定の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
3	固定の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
4	固定の能力	鎖骨骨折	ペア・グループ
5	固定の能力	上腕骨骨幹部骨折	ペア・グループ
6	固定の能力	上腕骨骨幹部骨折	ペア・グループ
7	固定の能力	上腕骨骨幹部骨折	ペア・グループ
8	固定の能力	上腕骨骨幹部骨折	ペア・グループ
9	固定の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
10	固定の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
11	固定の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
12	固定の能力	コーレス骨折	ペア・グループ
13	固定の能力(総復習)	固定法のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	固定法の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	固定法の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(5/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①固定の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	固定の能力	第5中手骨頸部骨折	ペア・グループ
2	固定の能力	第5中手骨頸部骨折	ペア・グループ
3	固定の能力	第5中手骨頸部骨折	ペア・グループ
4	固定の能力	下腿骨幹部骨折	ペア・グループ
5	固定の能力	下腿骨幹部骨折	ペア・グループ
6	固定の能力	下腿骨幹部骨折	ペア・グループ
7	固定の能力	肋骨骨折	ペア・グループ
8	固定の能力	肋骨骨折	ペア・グループ
9	固定の能力	肋骨骨折	ペア・グループ
10	固定の能力	肩鎖関節上方脱臼	ペア・グループ
11	固定の能力	肩鎖関節上方脱臼	ペア・グループ
12	固定の能力	肩鎖関節上方脱臼	ペア・グループ
13	固定の能力(総復習)	固定法のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	固定法の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	固定法の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(6/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①固定の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	固定の能力	肩関節前方脱臼	ペア・グループ
2	固定の能力	肩関節前方脱臼	ペア・グループ
3	固定の能力	肩関節前方脱臼	ペア・グループ
4	固定の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
5	固定の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
6	固定の能力	肘関節後方脱臼	ペア・グループ
7	固定の能力	手第2指PIP関節背側脱臼 (アルミ副子背側固定)	ペア・グループ
8	固定の能力	手第2指PIP関節背側脱臼 (アルミ副子背側固定)	ペア・グループ
9	固定の能力	手第2指PIP関節背側脱臼 (アルミ副子背側固定)	ペア・グループ
10	固定の能力	アキレス腱断裂	ペア・グループ
11	固定の能力	アキレス腱断裂	ペア・グループ
12	固定の能力	アキレス腱断裂	ペア・グループ
13	固定の能力(総復習)	固定法のポイントを学ぶ。	個人
14	実技試験	固定法の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	固定法の習熟度を再評価・確認し理解する。	グループ

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(7/7)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	前期	105(210)	実習	7

【授業の概要・目的】

三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①固定の能力の向上を行う。 ②臨床的な柔道整復術を修得する。 ③鑑別診断により正確な判断を身に付ける。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	固定の能力	足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)	ペア
2	固定の能力	足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)	ペア
3	固定の能力	足関節外側靭帯損傷(局所副子固定)	ペア
4	固定の能力	膝関節内側側副靭帯損傷 (Xサポートテープ固定)	ペア
5	固定の能力	膝関節内側側副靭帯損傷 (Xサポートテープ固定)	ペア
6	固定の能力	膝関節内側側副靭帯損傷 (Xサポートテープ固定)	ペア
7	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (バスケットウィーブテープ固定)	ペア
8	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (バスケットウィーブテープ固定)	ペア
9	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (バスケットウィーブテープ固定)	ペア
10	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)	ペア
11	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)	ペア
12	固定の能力	足関節外側靭帯損傷 (フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)	ペア
13	固定の能力(総復習)	固定法のポイントを学ぶ。	ペア
14	実技試験	固定法の技術内容を確認する。	個人
15	解説・再試	固定法の習熟度を再評価・確認し理解する。	個人

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	認定実技審査要領

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅲ(1/3)	片桐　秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	45(90)	実習	2

【授業の概要・目的】

臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師の業務の流れを理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ	コミュンケーションスキル
③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ	チームで働く力
④業務範囲と施術の適応を理解する	考え抜く力
⑤健康保険制度の仕組みをよく理解し適正な取り扱いを学ぶ	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	①患者との接遇マナーと配慮　②受付業務(カルテとレセプトの管理)　③患者と施術者のコミュニケーション　④ベッドメイク等の院内整備と精巣業務後　⑤衛生材料の準備と管理保管作業　⑥施術の補助業務(患者誘導・案内)　⑦医療面接や問診の聴取方法の学習　⑧バイタルサインのチェック・身体測定の補助業務　⑨物理療法機器の点検・清掃・操作法の学習		グループ
2			グループ
3			グループ
4			グループ
5			グループ
6			グループ
7			グループ
8			グループ
9			グループ
10			グループ
11			グループ
12			グループ
13			グループ
14			グループ
15			グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅲ(2/3)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	45(90)	実習	2

【授業の概要・目的】

臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師の業務の流れを理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ	コミュンケーションスキル
③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ	チームで働く力
④	考え抜く力
⑤	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	＊外来患者模擬演習:①頭部体幹胸郭部の損傷に対する診察と受け入れ態勢の確認・医療機関への紹介・転医について　②上肢の損傷に対する診察と受け入れ態勢の確認・医療機関への紹介・転医について　③下肢の損傷に対する診察と受け入れ態勢の確認・医療機関への紹介・転医について		グループ
2			グループ
3			グループ
4			グループ
5			グループ
6			グループ
7			グループ
8			グループ
9			グループ
10			グループ
11			グループ
12			グループ
13			グループ
14			グループ
15			グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅲ(3/3)	小野　博司	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	3	後期	45(90)	実習	2

【授業の概要・目的】

臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師の業務の流れを理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ	コミュンケーションスキル
③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ	チームで働く力
④	考え抜く力
⑤	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	①各疾患に対する診察・処置(整復法・徒手検査法・手技療法)の技術向上を習得する。　②各疾患に対する有用な衛生材料の選択と固定装具の作成の技術向上を習得する。　③各疾患に対する適切な診療費についてコストパフォーマンスについて学ぶ。　④柔道整復師倫理要綱を踏まえ医療人として適切な振る舞い・人への配慮ができるよう人格の陶冶に努める。　⑤社会保障制度をよく理解し臨床現場で活動する際の総合的な社会常識について検討し自己研鑽(リベラルアーツ)について検討する。		グループ
2			グループ
3			グループ
4			グループ
5			グループ
6			グループ
7			グループ
8			グループ
9			グループ
10			グループ
11			グループ
12			グループ
13			グループ
14			グループ
15			グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて